



令和元年 8月 2 / 日

南相馬市議会議長

会派名 友和会

代表者氏名 代表 中川 左一



調査研究報告書

- 1 期間 令和元年 8月 7日（水）～ 元年 8月 9日（金）
- 2 参加者
- | | | | |
|---|-------|---|-------|
| ① | 中川 左一 | ② | 今村 裕 |
| ③ | 細田 廣 | ④ | 田中 一正 |
| ⑤ | 菊地 洋一 | ⑥ | 大場 裕朗 |
- 3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

別紙

調査研究内容

月日	令和元年8月7日（水）～元年8月9日（金）
旅行先	兵庫県明石市 / 養父市
調査研究事項	認定こども園の取組みについて/ 公共交通「やぶくる」の取組みについて
〔内容〕	
明石市：認定こども園の取組みについて	
○導入の経過及び背景について ○概要について（施設機能、施設整備費用及び財源）	
○運営状況について（運営、保育士確保、保育士負担） ○園児、保護者の対応につ	
いて（長時間利用児と短時間利用児 それぞれの保護者への対応、クラス分け、行事）	
○利用者からの評価について ○今後の課題と対応について	
明石市は、こども局を創設し、市長を先頭に子育てに関するあらゆる問題やニーズ	
に対応できる組織を整え、子育てに力を入れることにより人口増加を目指しているこ	
とが分かった。その一環として、就学前教育・保育を一体的に行うため、幼稚園・保育	
所の所管を超えて幼保連携型認定こども園を開園した。開園当初は、従来の保育園・	
幼稚園それぞれでの園生活と同様に過ごすことができると捉えていた保護者から、	
様々な意見等があったが、不公平感の解消など問題解決に対応することにより、現在は	
開園4年目を迎え運営も安定している。	
今後の課題としては、幼・保職員間の情報の共有及び連携、より質の高い保育の提供、	
保護者との信頼関係の構築等が挙げられた。	
明石市においては、認定こども園の制度を最大限に活用できており、これまでの市の	
取組みが子育て世代である30、40歳代で評価され、6年連続で出生率も増加し、	
転入者増加にも繋がっている。	
養父市：公共交通「やぶくる」の取組みについて	
○導入の経過及び背景について ○実施状況について（実施状況と成果、実施に係る	
経費、利用件数の推移） ○今度の課題と対応について	
養父市では、国家戦略特区のモデル地区として新たな自家用有償観光旅客等運送	
事業を開始したが、それには人口減少や高齢化、離農による担い手不足が背景にあり、	
経営ノウハウを有する企業の農家参入や個人による多様な「農あるライフスタイル」	
を提案しようと取組みを始めた。その中に、過疎地域等での自家用自動車の活用拡大が	

組み込まれ、観光客を含めた旅客運送が実現した。地域住民がドライバーとなり、マイカーで市民や観光客の移動の手伝いを開始してから1年2ヵ月が経過したが、徐々に利用者も増え、高齢者の通院や買い物等に活用されている。